

スリーアール

3Rのススメ。



2024

冬③

今回のシリーズは、京都府の依頼を受けて産廃の3R技術の紹介をしています。先日、京都府内の産廃処分業者を訪問して会社概要や処理技術、今後の方向性などをお聞きしました。

特集

1200年のまちを資源循環でつなぎ、さらに未来をひらく礎に

有限会社千両松

会社概要・PR

インバウンドの旅行者が街中にあふれる京都ですがその中でも伏見稲荷大社は大人気ですね。その表参道の石の下には直接見えないですが当社製造の再生砕石が敷きこまれています。

経年劣化したビルなどを取り壊した時に発生するコンクリートがれき等を当社に受入れて破砕機（クラッシャー）に放り込み細かく砕き粒度や形状を整えた上で、再生砕石としてまた工事現場へ資材として送り出しています。

例を言いますと、京都駅前の近鉄百貨店（元丸物）を取り壊したガレキを再生砕石にして稲荷山トンネルのアスファルト舗装の路盤材として出荷しました。

バージン材なら森林を伐採して地山から採取をするところ、再生砕石を使用するので伐採など自然破壊を防いでいます。



府内で大量に処分されるコンクリートがれきは、破砕・粒度調整されて、路盤材として様々な場所で利用されています。



3Rを進めるための課題や要望

どうしてもコンクリートがれきの多量に発生する時期が重なり受け入れ状況が混雑します。また、再生砕石の出荷もコンスタントでなく滞留することがあります。

要望としては、公共工事などの発注の平準化をお願いします。国や地方自治体が発注情報をお互いに共有していただき資源循環の高度化を意識して 工事発注をお願いします。

今後の思い

今のところ再生砕石は主に道路や建物の路盤材・基礎材として使用されていますが、今後は、新築されるときに生コンクリートの骨材として使用されることを願っています。

それは、古いビルを取り壊し、そこに新築ビルを建てる時に古いビルから発生したガレキを再生砕石として命を与えなおして生コンの中に骨材として新築ビルになるというスクラップ&リ・ビルドという夢のサークルです。

終わりが始まりでもあるのです。有限会社千両松は産業廃棄物の処理会社ですが、実は、材料を世の中に送り出す会社なのです。再生砕石を作れば作るほど出荷すればするほど自然破壊も防いでいると自負し日々励んでいます。

がれき類の3R技術

- ①建設現場（主としてビルなどの解体工事）で発生するコンクリートがれきなどを受入れ、
- ② a) 荷卸し場（展開場）に搬入物の性状調査
b) 粗割りと鉄くずなどの取り除きを大型重機にて行う
c) 破砕機（クラッシャー）に投入（ここでは人力による鉄くずなどの手選別・磁選機による選別を投入前後に行う）
d) 粒度調整と形状を整えるためにショベルカーにて調整器に投入する。
e) 製品ごとに保管場所にショベルカーにて運搬する。
- ③再生砕石（RC40・RC30・RM3）

